

就職座談会

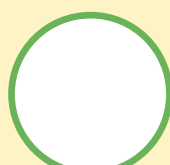
就職座談会 2022 レポート

4年生パネリスト



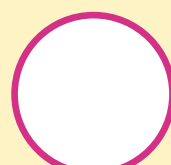
Aさん
平井ゼミ

商社
営業職



Bさん
株本ゼミ

ネットワーク
エンジニア



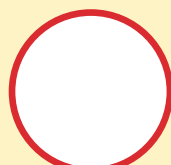
Cさん
榎並ゼミ

システム
エンジニア



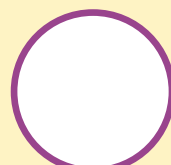
Dさん
天野ゼミ

システム
エンジニア



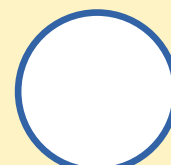
Eさん
平井ゼミ

製造業
総合職



Fさん
尾関ゼミ

教育
総合職



Gさん
赤岡ゼミ

公務員
総合職

- A. 平井ゼミ所属のAと申します。私は、福祉系商社の営業職に内定をいただきました。
- B. 株本ゼミ所属のBと言います。IT企業のネットワークエンジニアとして内定をいただきました。
- C. 榎並ゼミ所属のCです。私は、IT企業のシステムエンジニアとして内定をいただきました。
- D. 天野ゼミ所属のDです。内定先はIT企業で、システムエンジニアとして採用されています。
- E. 平井ゼミ所属のEと申します。内定先は製造会社で、総合職として採用されています。
- F. 尾関ゼミ所属のFです。就職先は大学で、職種は事務・総合職で採用されました。
- G. 赤岡ゼミ所属のGと申します。就職先は公務員の事務です。

Q1. 就職活動はいつ頃、何から始められましたか？ また、就職活動の大まかな流れを教えてください。

3年生の6月の就活解禁と同時に始めました。まず自己分析から始めました。自分が将来何の仕事がしたいのか、何の仕事だったらやりがいを持って続けられるかを一番優先して考えて、それを元に自己分析しました。その後、3年の秋頃から説明会、合同説明会、セミナーに参加しました。参加してはみましたが、その中で自分に合いそうな企業に出会えず、11月の学科の企業交流会までは何もしない時間が続きました。しかし、その企業交流会で出会った企業にESを出して、年が明けてから内定をいただけました。同じ時期に、同じ福祉業界の他の企業もいくつか説明会を受けたりしていましたが、最終的に最初に内定をいただいた企業に決めました。

※ES…エントリーシート

3年の6月のインターンシップ解禁から始めました。私は、行きたい業界を1丁に絞っていたので、そこに該当する企業さんのインターンシップに参加することで、並行して、自己分析を進めていきました。秋ごろから、企業説明会にも行き始めました。そこで、面接する企業を考えていきました。同時期、内定を頂いた企業のインターンシップに参加して、3年の3月に面接の話をいただいて、その面接から進んでいき内定をいただきました。

私は全体的にとっても遅かった就職活動だと思っています。まず、始めたのは3年の6月で、マイナビの合同説明会に参加しました。そこから、ワンデーインターンシップなどにも参加していました。しかし、本格的に就職活動を始めたのは、12月中旬くらいでした。特に、ESを書くことは避けてしまっていて、初めてESを書いたのが1月でした。1月2月は、焦りから一気に冬インターンに参加したり、所属ゼミの先生やキャリアセンターを活用したりして、相談にたくさん乗っていただいていた。最終的には、4月末から6月にかけて内定が出始めたという流れでした。

3年生の夏休み頃にインターンに数個参加して、3年生の秋頃にキャリアセンターでESの添削を受け始めました。本格的に始めたのは11月頃になるのですが、そこからインターンや本格的な企業説明会を受けはじめ、2月ごろには実際にESを出したり、面接を受けたりしていました。

私は始めるのが遅く、3年生の10月頃からマイナビのWEBエキスポに参加し始め、11月、12月にマイナビ・リクナビのWEB講座を受講しました。そして、1月、2月に入りオンラインの一日インターンシップや企業のWEBセミナーに参加し、3月に入り企業説明会、WEBテストや面接が始まっていきました。その後、4月に入りある程度選考が進んでいき、6月には現在就職予定の会社に内定を頂きました。

2年生の秋ごろからSPIやTOEICの勉強を一日何時間やる、と決めて少しずつやり始めました。3年生の12月に入った頃から業種を確定させて、インターンにも参加し始めました。そして、2月頃から受けたい企業などをある程度決め、少しずつ受けていき、5月頃には内定を頂きました。

2年の秋頃から予備校に通い始めて、本格的に公務員試験の勉強を始めたのは、大学3年生の秋頃からでした。

Q2. 自己分析はいつ頃、どのようにされましたか？

3年生6月の就活解禁に合わせて、学校で開催される自己分析のセミナーがあったので、それに参加しながらワークシートを活用したりしていました。他に、面接前はその対策として自己分析をさらに深めていました。

3年6月からのインターンシップ開始と同時にしていました。本格的に始めたのは3年10月頃で、キャリアセンターの自己分析のセミナーや、リクナビの自己分析ツールを使っていました。

3年の夏からリクナビを使って少しずつ行っていましたが、本格的に始めたのは1月頃で、自分史というものを作りました。これは、小学生から今までに経験したことや、どう考えてどんな行動をしてきたかをノートに年表にして書きだしていくものです。他に、強みや弱みを箇条書きにしたり、就活で譲れない部分(自分軸)を書いたりしていました。

私は1年生の頃から有給のインターンに参加していたので、グループワークの中で自己分析をする機会が多かったです。また、3年生になって本格的に始めたときには、周りの人に聞いてみて他己分析してもらっていました。

3年生の11月、12月頃に、WEB講座に参加したり、昔からの友人に他己分析してもらったりしながら進めていきました。

1年生の後期から始めていました。普段から自分自身がどのように感じているのか考えることが多かったため、その一環という形で始めました。方向としては、既存のサービスも結構あるのですが、それらを利用することはなく、どちらかというと、親しい人や友達に意見を聞くなど、身近な人の意見を聞くことを重点的に行っていました。

公務員は、筆記試験が通過してから面接試験があるので、ある程度筆記試験の勉強が進んだ3月頃に少しずつ始めました。3月から5月頃に、志望動機や自己PRをまとめはじめ、筆記試験が終わった5月頃からは人物面接中心の対策に移行しました。

Q3. 業界研究、企業研究について具体的にどのように調べましたか？ また、業界は絞って受けていましたか？

合同説明会を聞くことと色々な業界について知ることができるので、そこで業界の状況を研究していました。また、自分が興味を持つものから業界を調べていきました。とにかくどこでも良いというように調べるのではなく、これだったらずっと関わるのできるなと思えるものを調べました。絞らなければ、説明会を受けるにもどこを受けようか迷ったので、興味のあるものから調べていくと良いと思います。

最初からIT系に絞っていたので、そこに絞って調べていきました。私はITや情報系が一番興味があったので、好きなものなら進めやすいかと思いついて、その業界の今の動向などを調べていました。企業研究では、その企業がどんなものを作り、どのような開発を強みにしているのかということに観点を置いて見ていました。

業界研究では、興味がある企業の合同説明会を受けたり、ニュースを見てその企業がなにを課題にしているのか調べていました。私も情報メディア学科ということもありIT企業をメインにある程度絞っていましたが、事務職にも興味がありました。そのため、業界はバラバラの事務職なども受けたりしていました。

低学年の頃からIT業界に進もうと考えていたので、絞って就活をしていました。業界の中でもかなり違いがあるので、それを知るためのインターンシップに参加したりなど、企業から情報を収集するようにしていました。

業界研究はインターネットで軽く調べるくらいしかしませんでした。企業研究は、WEBエキスポなどのWEBセミナーに参加してインターネットで行いました。業界は絞らずに就職活動を行っていました。

業界研究や企業研究の取っ掛かりとして、本やインターネットで情報収集するところから始めました。その中から、自分が何をしたいのかを考えていくということから進めていきました。2年後期からは実際に自分が興味のある職業で働いている人のお話を聞く機会を作っていたり、自分から行動したりするようにしていました。業界はある程度絞って受けていました。

3年生の夏ごろまでは、民間と悩んでいました。しかし、民間のインターンを受けて、やっぱり公務員がいいと思ったので、それからは公務員一本に絞りました。公務員でも職種が色々あるので、国家がいいのか、地方がいいのかなど予備校のパンフレットを見たり、インターネットを使ったりして調べていきました。

Q4. この業界に進もうと思った最終的な決め手は何ですか？

私は情報メディア学科に進学したのですが、元々武庫女の福祉学科に興味がありました。周りはIT系に進む人が多かったので、自分もその方向に進むのかなと考えたこともありましたが、やはり福祉に関わりたいという思いがあり、そこに気づけたことが決め手になりました。内定先の福祉業界は今の学科とは関係ないのですが、自分のやりたいことができ、やりがいをもってお仕事できる環境だと思うので、学科とは関係ありませんがこの業界に進むことに決めました。

高校3年生の時から情報メディア学科に進み、情報系の職業に就きたいと考えていたので、この軸を通し続け、IT業界に決めて就活を進めていきました。

最後まで軸は定まらなかったのですが、IT業界は色々な業界を見ている中でも成長していく業界で将来性があると思い、この業界を選びました。また、長く働きたいと考えたので、結婚してもリモートワークなどで長く働ける企業が多いと感じたことからIT業界に進みました。

元々進みたいと考えていたことと、学んできたことを生かしたいという点からプログラミングなどができる職場に行きたいと思い、ITを選びました。

製造業モノづくりという今までに触れてこなかった分野であることから、今までにない様々な新しい経験をできるのではないかとこのことで決めました。

大学2年の時から、先生に付いて共同で研究をさせていただいていました。その経験から、卒業後も研究職に近い位置で働いていきたいと思い、大学を就職先に選びました。

公務員に進もうと思ったきっかけは、男女差が少ないことと、ワークライフバランスがしっかりしているということです。

Q5. 企業を選ぶうえで何を重視しましたか？

また、そう考えた理由は何ですか？

やりがいを持って仕事できることを重視しました。これから、その仕事について勉強したり、研究したり、長くかかわる企業になると思ったので、ずっと興味を持ち続けられ、やりがいを感じられることを一番考えて選びました。

そのIT企業が作っているものは何なのかということや企業の強みを一番重視していました。その強みと自分の作りたいものややりたいことなどがずれていたら、ミスマッチにもつながると思ったので、その企業の強みを重視していました。

プライベートと両立した仕事をしたかったので、勤務地や働いている人の人柄を重視していました。

様々なことができること、成長できること、社内の雰囲気が良いことを基準に選んでいました。様々なことにチャレンジしたいと思っていたので、色々な案件に触れられる場所が良いということと、業界の流れが速いので、自分をどんどん成長させてくれる環境がいいということを考えていました。ITに関しては、細かく基準を絞っていても似たり寄ったりの企業がたくさん出てきます。その為、面接をしていくなかで、社内の雰囲気や人事さんの雰囲気を見て、この会社の雰囲気が良いなと思ったところから最終的に企業を選びました。

やりたいことや就きたい職業が自分の中で決まっていなかったため、会社の創立年数と固定残業制度の有無を特に重視していました。会社の創立年数が長ければ、これまでの社会情勢であったような危機を幾度も乗り越えてきているため、安定した経営を送れるのではないかと考えました。

自分のやりたいことができるかということや、自分の興味関心に近いところであるかどうかということも考えていました。他には、勤務地や給料、福利厚生についても意識して考えていました。

公務員は、国家公務員や地方公務員などと分かれており、そのなかでも市役所や都道府県庁などと働く場所が違います。その中で私が重視していたのは、自分が何をしたいかということを重視していました。なぜなら、公務員として実際働いたときに、志望動機が働くモチベーションになるため、そこを一番に重視していました。

Q6. 面接対策はどのようにされましたか？

また、実際の面接でどのような質問をされましたか？

内定を頂いた企業に受けに行く前、キャリアセンターで面接対策を受けようと思っていたのですが、体調を崩してしまい受けられなかったため、イメトレを何度もして挑みました。また、doda キャンパスやネットの記事でよくある質問項目が載っていたので、その答えを事前に考えたりしながら自己分析をしていました。他に、何を聞かれても答えられるようにしておきたかったため、色んな質問について考え、大学生活のことを思い出していました。自分のことについて聞かれるだけなので、そこまで不安には思いませんでした。実際の質問は、基本的にESの中から聞かれたのですが、それ以外のもので、入社してからどんな社員になりたいかというような将来像についてのことを必ず聞かれました。

私は、面接対策を始める前に面接が入るような就活になってしまったので、実際の面接と同時並行で面接対策のセミナーを受けるなどをして、進めていきました。学校のキャリアセンターを利用したオンライン面接やdoda キャンパスの面接講座を受けたり、エージェントさんと一対一の面接を受けたりして、面接対策はかなり行っていました。実際の質問の中で印象に残っているのは、「自分の人生は運がいいほうか悪いほうかどちらにしてもその理由を教えてください」というものと「自分を動物に例えると何か」という質問です。また、部活動や授業、資格取得など様々なことをやっていたので、最終的に何を目標しているのかということも聞かれました。そのため、幅広くやっている人はそこを準備しておいたほうが良いと思います。

想定した質問に対して答えを用意し、それを声に出して読むということを行っていました。提出したESの中から聞かれることが多いと思うので、よく読んで深堀りされても答えられるように自己分析をしていました。また、逆質問を考えることに力を入れていました。1つだけでなく、いくつも質問し、興味があることをアピールして、こちらから絶対に話を切らないようにしていました。質問は、その企業だけの質問を1つ用意するようにしていたり、自分の思っていることを伝えた後、「〇〇さんはどう思いますか。」と聞いたりして、与えられるものだけでなく自分から聞くようにしていました。実際にされた質問の中で印象に残ったのは、幼少期の頃から深堀りされて聞かれたことで、この対策として、自分史を作っておいたことが役に立ち、良かったと思いました。

面接対策はエージェントやキャリアセンターにしてもらっていました。基本的には、数をこなしていき、面接に慣れていきました。質問としては、ガクチカや志望動機というものが非常に多かったです。また、1次面接と最終面接で聞かれることも違うので、インターネットで調べていました。また、私が特殊だったのかもしれませんが、最終面接で自己紹介などを書いたパワーポイントを使い、5分間のプレゼンをした後、質疑応答に入るという面接もありました。

ESに書いたことは答えられるよう大まかに回答は準備するのですが、暗記をすると言葉に詰まってしまった時焦るので、単語を用意してなんとなく言いたいことを考えていました。また、友人とzoomを使用して、面接練習をしました。実際の質問では、失敗経験や、コロナ禍の終息後なにをしたいかということをよく聞かれました。

自分の頑張ってきたことを細部まで言語化しておくことから始めました。また、業界や企業についてしっかりと知っておくことで、予め簡潔に説明できるようにしておいたほうが良いと思います。他に、自分が入社後何をしたいかということの主張とやりたいことの矛盾点が生じないように、論理だてて考えておいたほうが良いと思います。実際にされた面接については、3分程度で自己紹介をしてくださいというものや、将来やりたいことに関する意気込み、ガクチカを通して何を得たのかということなど踏み込んで聞かれます。そのことから、本当に言語化は重要だと思います。

※ガクチカ…学生時代に力を入れたこと

キャリアセンターや予備校の面接練習を1週間に2回ほど入れていました。実際の面接は、公務員では面接カードというものがあるのですが、それに沿って聞かれました。私は、地方公務員の試験を受けていたので、地方にどのような課題があるかということや、その解決策について聞かれました。

※面接カード…国家公務員試験の一次試験合格者が、その後の人事院面接の際に提出するカードのこと

Q7. これだけは伝えておきたい！という面接のコツを教えてください。

面接に対してはあまり不安に思っていないくて、ただ自分のことを聞かれるだけなんだという気持ちで挑んでいたのが、気軽な気持ちで面接をしていました。自分のことを聞いてもらったり話したりするのが好きな人は、面接をそんなに不安に思わなくても良いと思います。私自身、ひとつの企業は面接練習ほとんどなしで挑みましたが、やってみるとただ自分の話を聞いてもらうだけだったので大丈夫だと思います。他に、「なんで同じ業界の企業は色々あるのにウチの企業を選んだの？」ということ聞かれたので、受ける企業の歴史やポイントなどをしっかりと調べ、選んだ理由をきちんと話せると良いと思います。

1番重要なことは笑顔だと思います。マスクをしていたり、オンラインだったりすると表情が伝わりにくく、しっかり伝わっているのかと不安になり委縮してしまい、集中ができなかったりもするので、いつもより2、3mm口角を上げるような気持ちで、表情を大げさにすると良いと思います。

準備を徹底することが重要だと思います。私はとても緊張しいのでオンライン面接でも1時間前からソワソワしていたのですが、準備していたおかげで想定していた質問がほとんどだったので答えやすかったです。また、面接官の方から、「何を聞かれても答えるね。」とほめていただいたこともあったので、そういった意味でも準備をすることで印象に残ることができると思います。

コツはたくさん練習して失敗することだと思います。私は自己紹介の際に緊張していることを先に伝えておくことで、緊張していることをわかってもらえたり、面接官の方が緊張をほぐしてくれたりするのでよかったです。また、集団面接では、うまく言えなかったときも他の人を観察して良いところを真似することで学んでいけるので、周りの人をよく見て次に生かすことも大切だと思います。

私も笑顔だと思います。自分が笑顔だと、面接官の人も笑顔になってくれるような気がして、話しやすかったです。また、はっきりした受け答えが大切だと思います。場の空気が重たくなってしまわないよう、とりあえず何か話すことが重要だと思います。

面接官を恐れずに、人と人の会話だということ意識すると、先生や先輩方とお話している時のように感覚が切り替わってきます。そのことで、ガチガチに緊張せずに話すことができるので意識は重要だと思います。

1週間に2回の面接練習で、キャリアセンターの方から言われたことは笑顔を忘れないことです。自分の話したいことが話せたり、声の大きさも調整がしやすかったりするので、笑顔は大切だと思います。

Q8. 自分は他の人と比べてここが違うぞ！というところは何ですか？ また、その強みをどうやって見つけられましたか？

自分の強みについては1番悩むと思いますし、私自身も悩んだのですが、コツコツ努力を続けるということを強みにしていました。何からそれを見つけたのかというと、所属していた日本舞踊部での活動からでした。1年生の時に発表会があったのですが、初めての発表会で緊張しますし、1人で10分以上も舞台上で踊ることから、振りが飛んだらどうしようなどと不安でした。そのため、部活動の時間外でも、一人で自主練をして準備をすることで、本番では今までで1番うまくできたと思えるような演技ができました。その経験から、コツコツ努力することで自信につながり、達成感にもつながったため、この強みをあげていました。

私は好奇心が強いということを強みとして話していました。読書をしていたり、単発バイトをたくさんしていたり、部活の掛け持ちをしてどちらでも幹部をやっていたりなど興味を持ったことに飛び込んでいけるということを話していました。これは、読書経験や、大学での経験から発見できたと思います。

私が長所として挙げたのは、厳しい環境でも粘り強く取り組み、その課題を解決できるということです。これを見つけたきっかけは、高校の頃の部活動からでした。高校では3年間、初心者としてなぎなた部に所属していましたが、初心者としてのつらさや厳しい練習の中のように活動したのかということ、また、その成果を話していました。他にも、ゼミ活動や塾のバイトの経験を挙げていき成果を考えると、この長所が浮かんできました。

チャレンジ精神かと思います。大学生生活でやってきたことが多かったので、話せることが多いと実感していました。面接では、チャレンジ精神のエピソードを聞かれたとき、1つだけではなく他のエピソードも話せたことが良かったと思っています。その強みは自分自身で自覚していたことと、他の人から頑張っているねといわれることが多かったことから気づいたかなと思っています。

話しやすく明るい雰囲気を作り出せることです。これは、他己分析をしてもらっている時に言われたり、実際の面接時に面接官の方にも言ってもらったりすることがあったのでそう感じるようになりました。

私は、長期的な目標に向けて主体的に努力できるということだと思います。これは、中高で生徒会長をしていた時に薄々気づいていたことと、大学に入って共同研究をしていく上で先生にそれを評価していただいたことで、自分がなんとなく思っていた強みが確信に変わりました。

決断するときはもちろん、気づいたときや立ち止まって過去を振り返ってみたとき、これから何をしていくのかということ、その都度頻繁に考えることができることが強みだと思います。これは、人物面接の対策の時、日ごろ何を気にして生活しているのかを考えたときに、これを1番気にしているなと考えたことから見つけました。

Q9. 情報メディア学科は企業からどんな印象を持たれているか、就活中に感じたことがあれば教えてください。

内定先からは面接で学科や授業についてあまり触れられませんでした。他の企業で発達障害を持つ子どもの教育支援を行っているところでは、「その授業はどのような活動をするんですか。」「情報メディア学科ってどんなことするんですか。」と聞かれることはありました。そこでは、授業の内容について説明をしました。

IT企業だったので、情報系だという「あ、情報メディアね。」という反応を受けることもあったのですが、パソコン以外にも生活科学なども含んでいるということに関してはよくわからないという反応をされることもありました。面接先によって色々な印象を抱かれている学科だと思ったので、授業について聞かれたときは、その内容についてしっかり話せるように普段から取り組んだほうがいいのかと思いました。

情報系を受けていた時は情報メディア学科について聞かれることは少なかったのですが、それ以外の製造業や建設系などの企業を受けたときはどんなことをしているか聞かれました。そこでは、情報メディア学科だけれども、パソコン以外に生活系や広告系の授業も取っていたということと話していました。また、情報というのは別の業界の企業でも最近では必要になってきていて、情報の部署というものもあるので、そこにも興味がありますということ伝えていました。

私もどうしているのか聞かれることが多く、プログラミングやマーケティングをやっていることを伝えると、SEにも営業はあるためか、マーケティングもやっているんだねと興味を持たれることがありました。他に、プログラミングについて深堀され、授業や自主学習でどういう言語などをやっているのか聞かれることもありました。

IT系ではない企業では、どうしているのか想像がし難かったみたいです。その為、どうしているのかということや学科について質問されることも多かったです。そういう時に、学科などについて説明をするとう理解してもらえることが多かったです。

大学職員のほかにも、SE系やWEB系の企業を受けていました。SE系の企業では文系の学科よりもITのスキルをもっていることから、そういうところが強いよねと言っただけのことがあり、情報色強めの印象を言われました。しかし、WEB系の企業に関しては、エンジニアとしての即戦力のようなものを求められていることが多いので、情報メディア学科出身ということはプログラマーと営業の両方の意見を汲めるというように捉えられました。大学職員では、ある程度のITスキルがあってシステムのこともわかってくれるんだなというように、ぼんやりと認識していただいたのかなと思います。

私の受けた地方公務員の面接では、出身大学や学部は重視されていなかったの、特に重要なポイントではなかったのかなと思います

Q10. 興味を持っている職種以外も見学や面接に行きましたか？
また、そこで参考になったことがあれば教えてください。

3年生のインターン解禁時に、テレビ局、子ども服の小売業、医療電子カルテのシステムIT企業のインターンに参加しました。そこで、様々な業界を知ることができ、とても勉強になりました。特に、テレビ局ではこれからのテレビ業界のお話を聞いて、勉強になるだけでなく、良い経験になりました。私は、所属学科にも関わるのではないかと思ったことから、気軽な気持ちで受けてみたのですが、周りの人は真剣にテレビ局に入社したいと考えている人が多いと感じました。その為、周りとのギャップを感じ、自分のやりたいこととは違うと思いました。

3年の8月に登録販売者の試験を受け、その試験に受かっていたことから、薬局の会社説明会なども見ていました。しかし、薬への興味は多少あったのですが、極められる自信がなかったため、薬局の就活はやめることにしました。業界を絞っている人は、他の業界を見ることで、その思いを再確認することができると思います。

私も様々な業界を見ていました。テレビ局や薬品系を受けたり、広告や印刷のほうにも興味があったため、受けていました。その中のテレビ局では、業界として成長することの厳しさや、スケジュールの大変さ、倍率の高さなどを学ぶことができ、表面のキラキラした部分だけではない現実を知りました。その為、キラキラした部分への憧れのみで受けることにはならず、良い経験になったと思います。

あまりIT系以外を見ていなかったのですが、その中でも志望と違う分野を見に行った時は、視野がとても広がり業界研究に繋がったので行ってよかったと思います。

業界などはあまり絞らずにやっていたので、保険の営業の選考を受けてみました。その時は、普段の面接と少し違うなという印象を受けました。

業種を絞っていたのであまり行けていないのですが、学科で開催されていた企業交流会などに足を運ぶ上で、社会には色々な企業があるんだということを改めて認識させていただきました。IT系の企業に行くことも考えていたため、そういった企業では色々な業種の方と関わってそのシステムを支えるという企業もあるという点で、将来的にIT系企業に就いたらこういった方々とも関わるようになるんだと分かり、参考になりました。

3年の夏頃まで民間と悩んでいたの、民間のインターンに行きました。そこで、公務員とSE関係の民間企業のどちらにつきたいかを考えることができました。特に、業務環境やワークライフバランスなどについて知れたことが良かったと思います。

Q11. インターンシップに行くのと周囲との差をつけられるとよく聞きますが、そこで参考になったことがあれば教えてください。

テレビ局や電子カルテのインターンを受けたとき、周りの積極性をとても感じました。例えば、「何か質問がある人は？」と聞かれた時、その場のほとんどの人が手を挙げていたり、話し方がハキハキしていたりして、私もこんな風にならないといけないなと刺激をもらうことができました。

3年夏～秋にかけて、1 Day インターンに参加していました。そこで、IT 業界の開発体験や、システム開発の流れについて知ることができました。このように、早めに業界について知ることができるので、業界・企業選択を早めに行うことができるのが良いと思います。また、同時期にインターンに参加すると、早期選考に参加させてもらえることがあるので、早くに就活を終えることができるというメリットがあると思います。

私は、夏と冬に1 Day インターンを受けました。夏のほうはまだ真剣に取り組んでいる人は少ない印象でしたが、冬ではハキハキとしゃべっている人が多いように感じました。特に、グループディスカッションに参加した時は、スラスラと話している人が多い中上手く話すことができず、焦りを感じました。その後、冬インターンをたくさん受けたことで、本選考では自信をもって話すことができたので、夏秋のインターンを受けて回数を重ねておくことは重要だと思いました。また、周りでもインターンに参加することで早期選考に進めたという人がいたので、絶対に夏インターンは参加すべきだと思います。

インターンは夏に3, 4個、11月には沢山受けていました。周りの友達がどのようなことをしているのが最初のほうはわからないので、それを知ることができたり、グループワークでは周りの人の動き方をみて学ぶことができたりしました。また、最後のグループワークの雑談で、就活がどこまで進んでいるかなどを聞くことができ、他の学生の意見を取り入れられることが良いと思います。

グループワークなどの短期インターンには参加したのですが、長期インターンには参加しませんでした。しかし、友人には長期インターンに行っていて、面接が1回のみで内定が決まっていた人もいました。明確に企業が決まっているのであれば、会社が開催する行事には参加して、名前などを覚えてもらうようにすることが内定を頂ける近道になるのではないかと思います。

夏には参加せず、冬のインターンに参加しました。長いもので2日ありました。そこまでインターンシップを重要視していなかったのですが、他の大学の学生がどんな感じなのかということが分かりました。特に女子大にいたので、男性の方が入ることによってどういう風に振る舞いが変わっていくのかということが知れて、集団面接やグループワークの練習になりました。長期インターンに通っていた友達は、本選考にインターンが明確に関わってきたので、はっきりとした志望企業がある方は長期インターンにも行ったほうが良いと思います。

インターンには公務員のものに行きました。公務員は3年生の夏と秋に集中していますが、参加してみないと業務内容など分からないことも多いので参加したほうが良いと思います。公務員全体の説明会もあるのですが、志望地域の説明会や、個別のインターンに参加したほうが面接で話しやすくなると思います。個別インターンで最終的には地方公務員になると決めたので、参加して良かったです。

Q12. 就活のために、利用していた施設やイベントを教えてください。

大学が主催しているセミナーやリクナビ、マイナビが主催しているセミナーに参加していました。それ以外のキャリアセンターや就活支援カフェ、現地のイベントは利用していませんでした。他には、オンラインの合同企業説明会に参加していました。

キャリアセンターの主催するイベント、合同企業説明会、オンライン面接対策を中心に利用していました。他に、doda キャンパスさんの面接講座や doda エージェントさんの面接対策、リクナビ・マイナビのオンラインセミナーも利用していました。

キャリアセンターや合同説明会を利用したり、面接対策をしたりしていました。他に、リクナビ・マイナビの合同説明会に参加していたり、キャリアセンター主催の合同業界研究会に参加したりもしていました。

キャリアセンターでES対策や面接対策をしてもらったり、私自身がスタッフとして働いていたこともあり“知るカフェ”という就活支援カフェを利用したりしていました。イベントでは、オンラインの就活イベントに参加したり、エージェントさんに面接対策をってもらったり企業を紹介してもらったりしていました。

この学校のイベントでいうと、キャリアセンター主催のイベントに2, 3回参加しました。他媒体のものでは、マイナビやリクナビのものを使って進めさせていただきました。

就活支援カフェみたいなイベントには参加していませんでした。周りの人に助けられながら、進めていった就活になったと思います。ただ、マイナビやリクナビが開催している会社説明会には何度も足を運んでいるので、広く業界をみるためにはとても良い時間だったと思います。

模擬面接などのためにキャリアセンターを活用していました。

Q13. 学業と就活の両立はどのようにしていましたか？

就活が忙しいことが原因で、授業やほかのことに手が付けられないという状態ではなかった為、両立についての問題はありませんでした。面接の日を忘れないようにスケジュール管理をしっかりと、授業を受けていれば大丈夫だと思います。

就活が本格化する3年後期には、授業単位に余裕があったので、それにより空いた時間をインターンシップなどに利用するようにしていました。また、スケジュールはGoogleカレンダーと紙の手帳の両方に書くことで、二重チェックができ、両立がしやすかったと思います。学生の本分は勉強だと思うので、就活が入っても授業も大事にできるよう、1, 2年生のうちに単位を取っておくと、余裕を持ったスケジュールを組むことができると思います。

授業を3年前期までにほとんど取っていたので、後期は就活に専念していました。また、スケジュール管理については、紙の手帳を持っていませんでしたが、電話などがかかってきたときにもすぐに対応ができるため、買ってメモをつけるようにしていました。他に、エクセルにエントリーした企業をまとめ、リストをつくるようにしていました。

1, 2年生の時にほとんどの授業を取り終えていたので、3年ではゼミのみというような感じでした。しかし、委員会に直面で来ないといけなかった為、授業と委員会の空き時間に顔出しなしのオンラインイベントや途中抜けOKのイベントに参加して、臨機応変に対応していました。

3年生のうちに必要な単位はほとんど取れていた為、就活を始めるのが遅かったこともあるのですが、あまり苦痛に感じることはなかったです。4年生になってゼミもあったのですが、先生とオンラインでゼミをやらせて頂いたりなど臨機応変に協力してくださったので、あまり苦戦することはありませんでした。ただ、自動車免許取得を4年生まで引きずってしまったので、それとの兼ね合いに苦戦することはありました。

1日のTo doリストというものを作って1日にこれをするということを決めて、計画立てて進めていきました。長期的に進めていくと、就活と学業の両立を苦痛に感じることはあまりありませんでした。もちろん学業との両立は大変でしたが、1日にすることを決めておくことで頭が整理されて動きやすくなるので、To doリストを作ることを一度習慣化しておく両立できると思います。なので、自分に合ったスケジュール管理を習慣づけてほしいと思います。

予備校の授業と大学の授業の両立はできていたのですが、筆記試験の直前期は難しかったです。特に、5, 6月には予備校の集中講座があり、そこでは何回かゼミを休むことがありました。しかし、休みすぎると卒業できなくなるので、苦手な分野やどうしてもいけない時は先生に質問しに行ったりして、予備校と学校のバランスを考えたスケジュールを組むようにしていました。

Q14. 就活中に感じた挫折と成功を教えてください。

また、それらを踏まえて、こう改善すればよかった！という点があれば教えてください。

ピンとくる企業に出会うまでが長く、やる気を失ってしまったことがありました。自分のやりたいことや興味のあることとマッチする企業になかなか出会えなかったり、企業を見つける手段が多く、どうやってみつけるといいのか迷ってしまい、後れを取ったように感じました。そうならないためにも、学校や学科が主催しているイベントに参加することで、それらに出席している企業から選ぶことが確実なのかなと思いました。マイナビなどで検索して、何百件もあるリストの中から選ぶよりも、合同説明会に参加している企業からのほうが選びやすかったです。ただ、初めて内定をいただいた企業に就職を決め、自分の就職活動には納得した結果になっていますが、もしかしたら他にも自分に合う企業があったかも知れないと思うと、内定を複数もった選択肢が多い状態から就職先を選んでよかったのかなと思います。

周りよりは早く就活を始めていたおかげで、就活解禁時に経験を積んだ状態で挑めたところが良かったです。しかし、自己分析などをしないうまま、面接やインターンを受けるということをしてしまっていたのは失敗だったと思います。当然、対策をしないうままでは受からないので、自信を無くすことにもつながりました。

私は就活を始めるのが遅かったことが失敗だったと思っています。夏にESや面接をしていなかったのも、それらがどのようなか知らない状態で本選考に進んでしまいました。そのため、準備の効率が悪く、不安な状態のまま選考に挑むことになりました。成功談としては、最初の段階で企業を絞りすぎず、たくさんの企業にESを出していたので、面接やESに慣れることができました。20社ほど面接を受けたのですが、最後のほうの面接ではあまり対策に時間をかけずに行くことができるようになり、面接に通りやすくなりました。そういった意味でも、回数を重ねることは重要だと思います。

挫折体験は正直いくらかでもありました。例えば、行きたいと思っていた企業で良い雰囲気立ったのに落ちていたり、面接で0から1は無理でも、1から100に膨らませることはできると思っていたことから、1次で膨らませたエピソードを2次で忘れていて、「あれ、こうじゃなかったっけ？」となることもあったりしました。また、周りの人が内定をもらったと聞いたとき、私は最終面接で落ちていたりして悔しくなることもありました。ただ、他人は他人、自分は自分なので、自信をもって周りの人にも支えられながら就活を行っていくことが重要だと思っています。

失敗談では、3次選考まで進んだ時に次に通れば内定という段階でお祈りメールがきて、とてもショックを受けてしまったことです。その企業はとても特殊な面接で、すべての面接でグループワークがあり、3次選考でも企業に直接みんなが出向いてグループワークをするというものでした。重たい面接で、準備もたくさんしたのですが、その日のうちにお祈りメールが来てしまい、かなり落ち込みました。しかし、ここまでやったから受かるというものではなく、自分の中でも過信があったのでそこが良くなかったと思います。また、人対人の面接でここまでやったら受かるというラインは存在していないので、そのことを学べたことは良かったです。良かったと思う経験では、様々な就職支援アプリのエージェントを登録したことです。大手のリクナビ・マイナビさんだけでなく、他にもエージェントさんはたくさんあるので、人気順でもいいと思いますが色々見てみると良いと思います。そのことで、自分の知らなかった企業を知ることができるので、様々な就活支援があることを知っておくと良いです。

挫折については、100%何に対してもやりたい性格だったので、体調管理のほうがおろそかになってしまったことです。体調管理ができていないと、ずっと頑張っていたことも発揮できなくなってしまうので、そこは改善できたことだったと思います。成功談に関しては、重複してしまうのですが、何回も面接を重ねていくうえで、面接官が人だと認識できたことが成功だと思っています。それを意識しながら話すと、作りすぎた言葉ではなく素直に話すことができ、良かったと思います。

失敗談から話すと、公務員試験ではかなり多くの科目を勉強しないといけないので、勉強習慣がない人はとてもしんどいと思います。ただ、私も勉強習慣がなく長時間勉強し始めたのも秋頃からで、正直遅かったです。3年生の始め頃から1日にやることをきめて計画的にやって、メンタルケアなどの休みもうまく取り入れながらするべきだと思いました。成功談では、力を入れる科目や分野を最初から決めて勉強ができたので、効率的に勉強で来たところが良かったと思います。

Q15. ガクチカはどのように考えましたか？

アルバイトや、学科の授業、部活動から考えました。例えば、授業では広告メディア演習が1番4年間で力を入れた授業だったのでそのことについて書きました。アルバイトでは、子どもの英会話教室で働いていたので、中学生の生徒の英検を合格させることができたことについて書きました。人のために尽くすことで自分のやりがいを感じることができたり、その子にとっても頑張ってもらえたことで合格にもつながり良かったということをお話しました。部活では、先ほども話したように、本番に向けて頑張ったことで、達成感が得られたことを書きました。

授業や部活動、アルバイト、資格取得について書きました。長所は好奇心が強いことだと話していたので、役職について努力したことや単発バイトをたくさんやっていたことなど様々なことを書きました。また、出来事だけではなく、その出来事から身に着けた、どんな状況でもすぐに対応することができるということなどもガクチカとして文章にしていました。

ガクチカとして書いたエピソードは、高校時代の部活動と、予備校のアルバイトと、ゼミでアプリケーションを作ったことでした。3年生の頭まで、高校時代の部活動しか頭に思い浮かんでなかったのですが、ゼミの先生にガクチカのエピソードは3つ以上あったほうが良いとアドバイスをいただき、自分でガクチカになるように生活を送っていきました。そのため、今からでもよいので、ガクチカになるようなエピソードを作っていくことが一つのポイントかと思っています。

学生生活でやってきたことが多かったので、エピソードやガクチカを3つほど用意していました。自己アピールとガクチカは、冒頭や末を変えれば色々な言い方でいうことができるので、企業によって文章を変えたりしながら書いていました。さらに、そのESやガクチカをキャリアセンターの方に添削していただいて、直しながら作っていきました。

まず頑張ってきたことを時系列にして書き出して、その中から、うそをつかない程度に話を膨らませてガクチカを考えていきました。嘘をついてしまうと、後々バレたり面接官に見抜かれたりするので、少し話をわかりやすくする程度にやってきたことを伝えるようにしていました。

ガクチカを考えるというよりは、何を頑張ってきたのかということは自分の中にあると思うので、それを詳細に文章化して、自分のやりたいことにつなげながら論理的に整合化していけばよいと思います。素直にやってきたことを言えばリーダー経験などがなくても評価していただけると思うので、授業で頑張ってきたことなどを伝えれば大丈夫です。先ほどDさんも言ってましたが、1を100にすることはできるのでそのようにしていけばよいと思います。

筆記試験が終わってから考えたので、深く考えることはなかったです。ただ、模擬面接の中で聞かれても良いことをESに書きました。

Q16. 就活中は大変なことも多いと思いますが、そういった時相談は誰にしていましたか？また、どんなことで相談しましたか？

家族やゼミの先生、同期、友人に相談していました。家族には、ESを出す企業を相談したり、自分にこの企業が合うかどうかを聞いていました。先生には、ESの書き方について教えてもらっていました。書いた後は、親や先生に読んでもらい添削をしてもらいました。友人には、周りの様子を聞いたり、就活の進捗具合を話したりしていました。お互いの苦勞などを相談することでスッキリしたり、お互いを支えあうことができたので、仲の良い友達に相談することは良いのではないかと思います。

家族などには就活中に話を聞いてもらっていましたが、相談というよりはうまくいかなかったことを話すような感じでした。自分のことを自分で決めるというのは、社会人になるための一歩だと思っていたので、あまり直接的な相談は避けていました。そのなかでも、重大な相談をしたのは、内定辞退の文章の添削を父にしてもらった時です。内定は承諾するにしても、辞退するにしてもきちんとした文章が必要になるので、現役で社会人をしている人に相談に乗ってもらう必要があると思ったからです。キャリアセンターでも社会人をしている家族でもよいので、大事な文章は見てもらったほうが良いと思います。

ゼミの先生と両親に1番相談していました。両親は、私の性格をわかっているんで、その企業が私に合うかどうかということを聞いたり、ESを客観的に見てもらったりしていました。先生には、1月くらいに就活について相談したいと伝えたとき、オンラインで色々聞いてくださりました。そこで、業界や企業についておすすめをしてもらったり、事務職についても聞いたりすることができたので、とてもお世話になったと思っています。また、複数の企業から内定を頂いた時、どの企業にするかということを一対一で先生に相談に乗ってもらったことで、後悔のない選択をすることができたと思います。

Q17. 面接で授業やゼミ活動の話をしましたか？

また、その時の面接官の反応はどうでしたか？教えてください。

学科について聞かれたときは、先ほど答えたような回答をしていました。ゼミ活動については、特殊なことをやっているんで、最初の挨拶のときに「プロジェクションマッピングやドローンに触っています」とゼミについて話すと、「すごいことをやっているね。」と言っていたりして、場を和ませるために使うことが多かったです。また、ITの企業なので、「授業でどれくらいプログラミング触った？」ということ聞かれましたが、ITの企業さんのほうが詳しいので、見栄を張りすぎず本当にやったことだけを伝えていました。また、資格取得のために勉強していることや持っている資格についても話していました。

どういう学科なのかと聞かれることが多かったため、ゼミや授業について話すことが多かったのですが、反応は良かったように思います。また、企業さんにもよりますが、その会社でやっていることに、今まで学んできたことをどうやって生かすのか聞かれることもあり、何と答えるか困ったのですが、頑張ってきたようにしていました。

面接で話す内容として、ゼミ活動や冒頭に話した共同研究をしていたということをメインにしていました。その為、面接官からはたくさん突っ込まれていました。面接官から自分の話を否定されることもありましたが、そういったことをあまり負に捉えずに、面接官はどう切り返してくるか見ているんだというように考えて、前向きでいることを心がけていました。このようにネガティブな質問をされることもありますが、しっかりと説明していくことで受け入れられるので大丈夫だと思います。

私はゼミのことを中心に話していたので、授業のことはあまり話しませんでした。面接官の反応は、頷くような感じで、深く突っ込まれたりすることはありませんでした。

Q18.3年10月の今この時期にしとけばよかったなと思うことや、しておいたほうがよいなと思うことを教えてください。

自己分析はセミナーを通してやっていましたが、企業選びは11月の合同説明会までできていませんでした。そのため、それに賭けるような気持ちにならなくても済むように、インターンや早期選考に取り組んだり、もっと早くから業界・企業分析をしておけばよかったなと思います。

せっかく早く就活を始めたのなら、面接対策や履歴書対策ももっと早くから始めておけばよかったと思います。3月までに終わらせるような気持ちで取り組みればよかったです。

ESを何か1つでも書くということをしておけばよかったと思います。就活を早く始めないといけないことは何回も言われていたので、6月から始めていたのですが、本格的なスタートが遅かったと感じています。詳しい質問に関しては、今言われてもわからないと思うので、まずは、自己PRを400字かいてみたり、ガクチカを1つでも書いてみたりというところから始めてみると良いと思います。

私も去年のこの時期は委員会に追われていて1番大変な時期ではあったのですが、早く始めておいたほうが良いと思います。2月頃に受けた企業では2次選考で落ちてしまったのですが、後々エージェントさんに聞くと、早期に女性の採用枠が埋まってしまって良かったんだけど取れなかったということをお教えいただきました。その為、インターンシップに早く参加していくことが大切だと思います。ESが怖いのであれば、ESなしの先着順のものなどから参加していても良いと思います。それも怖いのであれば、顔出しなしのオンラインのものや、友達と一緒に参加するなどでも良いので、まず始めることが大切だと思います。

始めるのが遅かったこともあって、何から始めればよいのか何がしたいのが本当にわかりませんでした。オンラインのセミナーに参加するのも遅く、本当にこれに参加して良いのか大丈夫なのかどうかなど、とても不安でした。今の時期から、ちょっとでも気になる言葉があれば、とりあえずイベントに参加してみることで後々何かの役に立つと思います。今の時期であれば、大手とかはわかりませんが中小企業であればそこが初めてという人もいると思うので、そこまで緊張せずに行けるとと思います。最初は緊張しますが、1つ初めて見ると何個も何個も参加することができたので、まず初めてみるのが大切だと思います。

大学職員というのをメインで考えていたのですが、それが狭き門だったので、同時にIT企業も視野に入れていました。IT系は、分野がとても多く細分化されていたのですが、その特徴をまだこの時期にはつかみ切れてなかったで、しっかり調べておいたほうが良いと思います。また、それらの特徴をしっかり知って受けてきているのかということをお突いてくる企業さんも多かったで、今くらいから言語化できているれば、怖がる必要がなかったのかなと思いました。その為、IT企業を受けたいと思っている方は、その辺りを今からしっかり言語化しておいてください。

公務員試験の勉強を本格的に始めたのが3年生の夏や秋だったのですが、その時は今やることに集中してしまっていました。そうではなく、どの時期までに何をどこまで終わらせなければいけないということを確認し計画を立てながら効率的にやったほうが良いと思います。人物面接で地域の課題や解決策をいうことがあったのですが、私は旅行が趣味なので、この地域はこういう取り組みをしていましたということを話すことができました。このように、趣味も生きてくると思うのでまた目を向けてみてください。

Q19. Fさんに質問です。自分の長所の「人が話しやすい空気を作ること」について、面接のときの具体的なエピソードやそれをやった結果などはどのように話していましたか？話しやすい空気を作るといふ長所は、具体的なエピソードを作りにくい印象があるので参考にしたいです。

実際には傾聴力が強みと言っていました。「なんでそれが強みな？」と言われたときに話しやすい雰囲気を出したり、いつも笑っていたりという感じでピックアップして文章化していきました。話しやすい雰囲気があるということをお直接書くのではなく、言葉を変えてESに書いていきました。流れとしては、傾聴力というキーワードをまず出して、その具体的なエピソードを書き、結果話しやすいんだねと思われるように作っていました。面接では、実際に話しやすい空気を感じ取っていただき、「にこやかで今日は話しやすかったです。」と言われたときは良かったと思っていました。